

民間 P H R サービス利用者へのアンケート調査結果等

I 民間P H Rサービス利用者へのアンケート調査結果

1. 民間P H Rサービスの調査概要と解析結果サマリ
 - (1) 民間P H Rサービスのアンケート実施概要
 - (2) 回答者属性
2. P H R利用状況
 - (1) P H R利用割合
 - (2) P H Rの認知度
 - (3) 利用実態
 - (4) 利用継続要因・離脱要因
 - (5) 連携へのニーズ
 - (6) 調査結果サマリ
3. 「民間P H R事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連
 - (1) 情報セキュリティ対策
 - (2) 個人情報の取扱い
 - (3) 保存・管理、相互運用性の確保
 - (4) その他(判定スコアやプロファイリング結果の信頼性・妥当性)
 - (5) 調査結果サマリ

参考：健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者の特徴

II 健診等情報に関するP H Rサービスを提供している 健康保険組合等に対するヒアリング調査結果

I 民間P H Rサービス利用者へのアンケート調査結果

1. 民間P H Rサービスの調査概要と解析結果サマリ

1. 民間P H Rサービスの調査概要と解析結果サマリ

(1) 民間P H Rサービスのアンケート実施概要

- 民間P H Rサービスの適切な形での普及展開に向けて、**サービス利用実態及び安全性等についてサービスを選ぶ際のポイントや留意点を明らかにすること**を目的に、個人を対象としたアンケートを実施しました。

【実施概要】

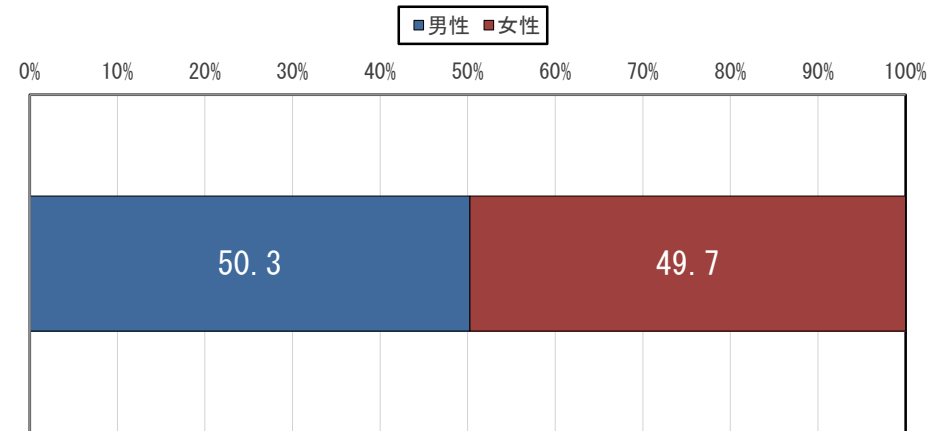
項目	内容
アンケート回答者数	・1,623名
アンケート対象者	・「民間P H Rサービス」の現利用者（867名）、過去利用者（離脱）者（203名）、未利用者（553名） ※スクリーニングによりサンプルバランスを取る（性別・年代・利用有無）
実施方法	・W E B アンケート調査（W E B モニターを対象に、電子メールで調査依頼、W E B 上で回答）
実施期間	・令和2年12月上旬
調査項目	①属性と利用状況（全員） ・ 年代・性別 ・ P H R の認知度 ・ 健康意識・健康行動 ・ P H R によるメリット ・ P H R の利用経験 ⇒ 現利用者/過去利用者/未利用者を仕分け ②P H R 利用者・利用経験者の利用実態・利用促進要因（現利用者・過去利用者のみ） ・ 利用実態(利用種類、目的、利用機能、情報、共有、デバイス、頻度、金額、経緯、継続理由) ・ 利用促進要因（利用による効果） ③P H R 過去利用者・未利用者の利用にあたっての懸念点（過去利用者・未利用者のみ） ・ 利用にあたっての懸念点（有効性・安全性、データ連携、個人情報、セキュリティ、同意、サービス終了時への扱い、サービス乗り換え、使い勝手、サービスへの説明に関する意識） ・ 利用していない理由（過去利用者・未利用者のみ） ④今後のP H R へのニーズ（全員） ・ 欲しい機能、セキュリティと利便性のバランス、連携ID、サービス乗り換え ・ 目的×データ範囲×連携したい相手、同意なく利用されたくない相手 ・ 望ましい同意の在り方 ・ サービスへの希望・不安

1. 民間P H Rサービスの調査概要と解析結果サマリ

(2) 回答者属性 (性別・平均年齢・年代別人数)

【回答者性別】

	実数	%
全体	1,623	100.0
男性	816	50.3
女性	807	49.7



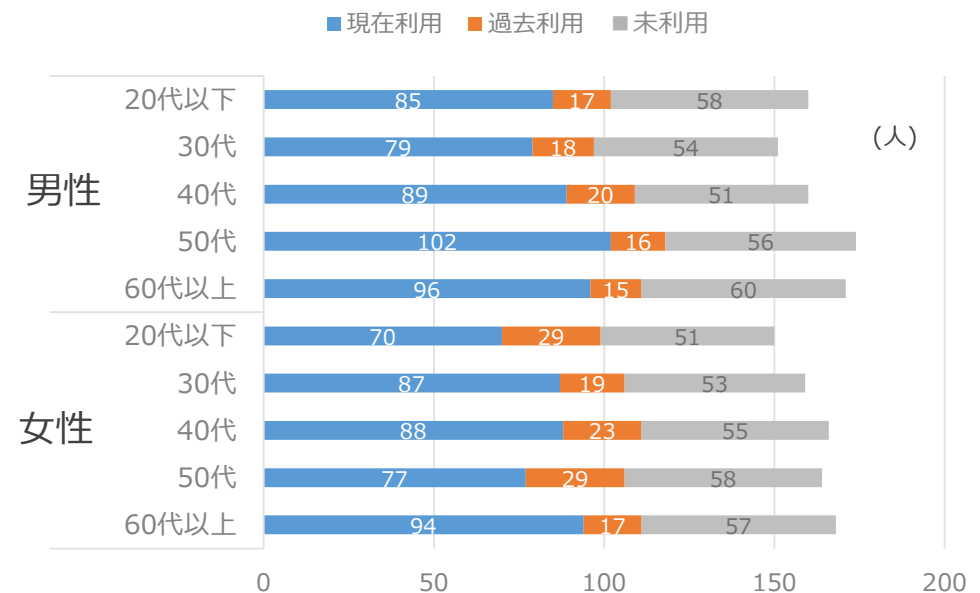
【回答者平均年齢】

全体 (人数)	平均 (歳)	最年長 (歳)	最年少 (歳)
1,623	45.5	70.0	15.0

【回答者年代別】

■有効回答数

		現利用者	過去利用者	未利用者	合計
男性	20代以下	85	17	58	160
	30代	79	18	54	151
	40代	89	20	51	160
	50代	102	16	56	174
	60代以上	96	15	60	171
		867	203	553	1,623
女性	20代以下	70	29	51	150
	30代	87	19	53	159
	40代	88	23	55	166
	50代	77	29	58	164
	60代以上	94	17	57	168



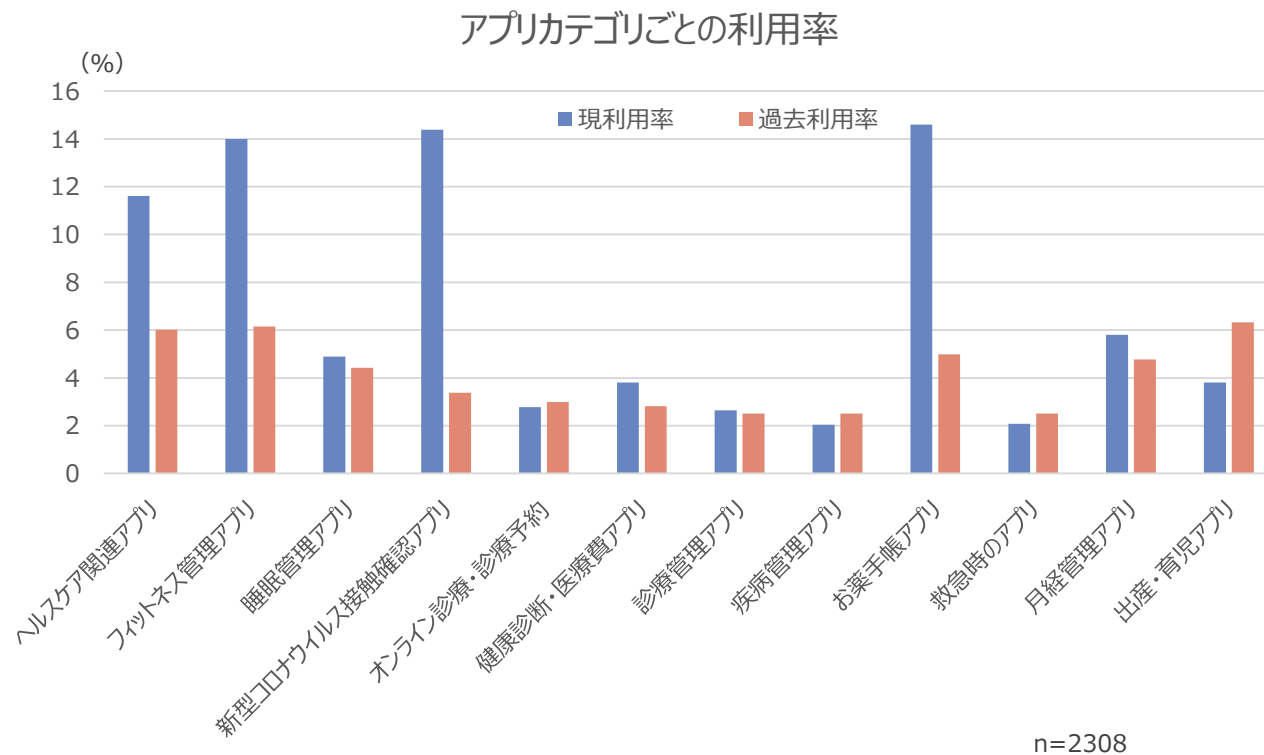
I 民間P H Rサービス利用者へのアンケート調査結果

2. P H R 利用状況

2. P H R利用状況

(1) P H R利用割合

- スクリーニング前の母集団を対象としたP H R **現利用率は、高いもので14%程度**
- 現利用者の利用しているアプリは、「お薬手帳」・「コロナ接触確認」・「フィットネス」が多い



スクリーニング前の母集団時の属性

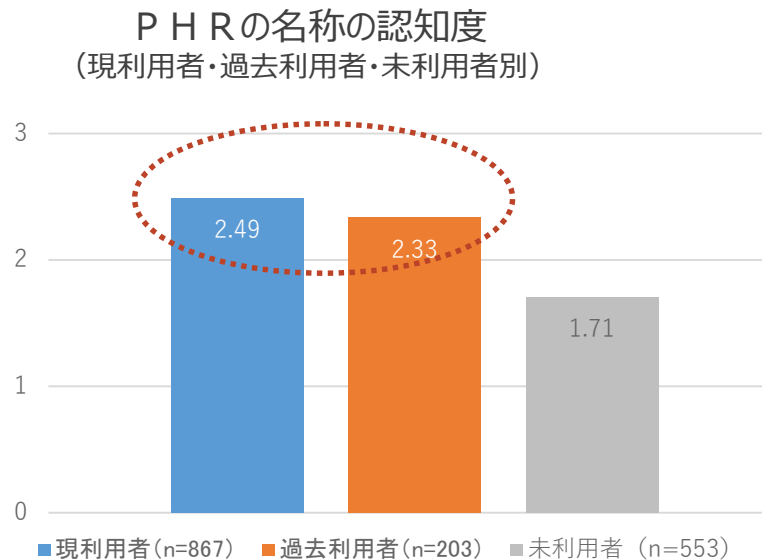
		全体
全体	実数	2,308
男性	実数	1,198
20代以下	実数	240
30代	実数	208
40代	実数	243
50代	実数	259
60代以上	実数	248
女性	実数	1,110
20代以下	実数	159
30代	実数	184
40代	実数	243
50代	実数	248
60代以上	実数	276

※本アンケートにおけるアプリカテゴリは、現存するサービスをベースに便宜的に分類したものであり、P H Rサービスを網羅的に分類したものではない。

2. P H R利用状況

(2) P H Rの認知度

- 66.7%がP H Rの名称について「全く知らない」と回答
- P H Rの名称の認知度は、現利用者・過去利用者の方が高い

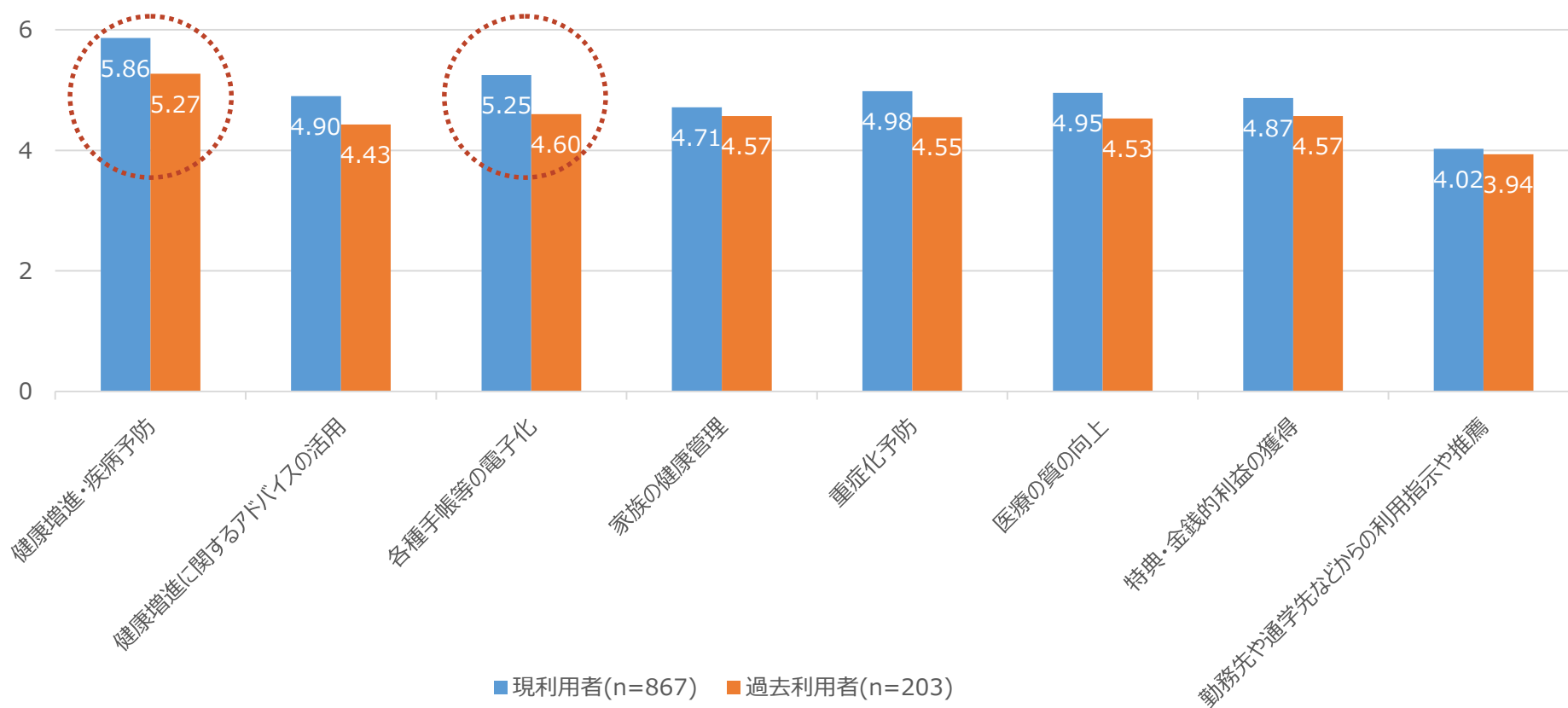


※選択肢「1. 全く知らない」～「9. よく知っている」の平均値を比較

2. P H R 利用状況

(3) 利用実態 ①目的

- 利用目的として、健康増進・疾病予防、各種手帳等の電子化が多い
- 勤務先や通学先などから利用するように指示や推薦からという回答はそれほど多くない

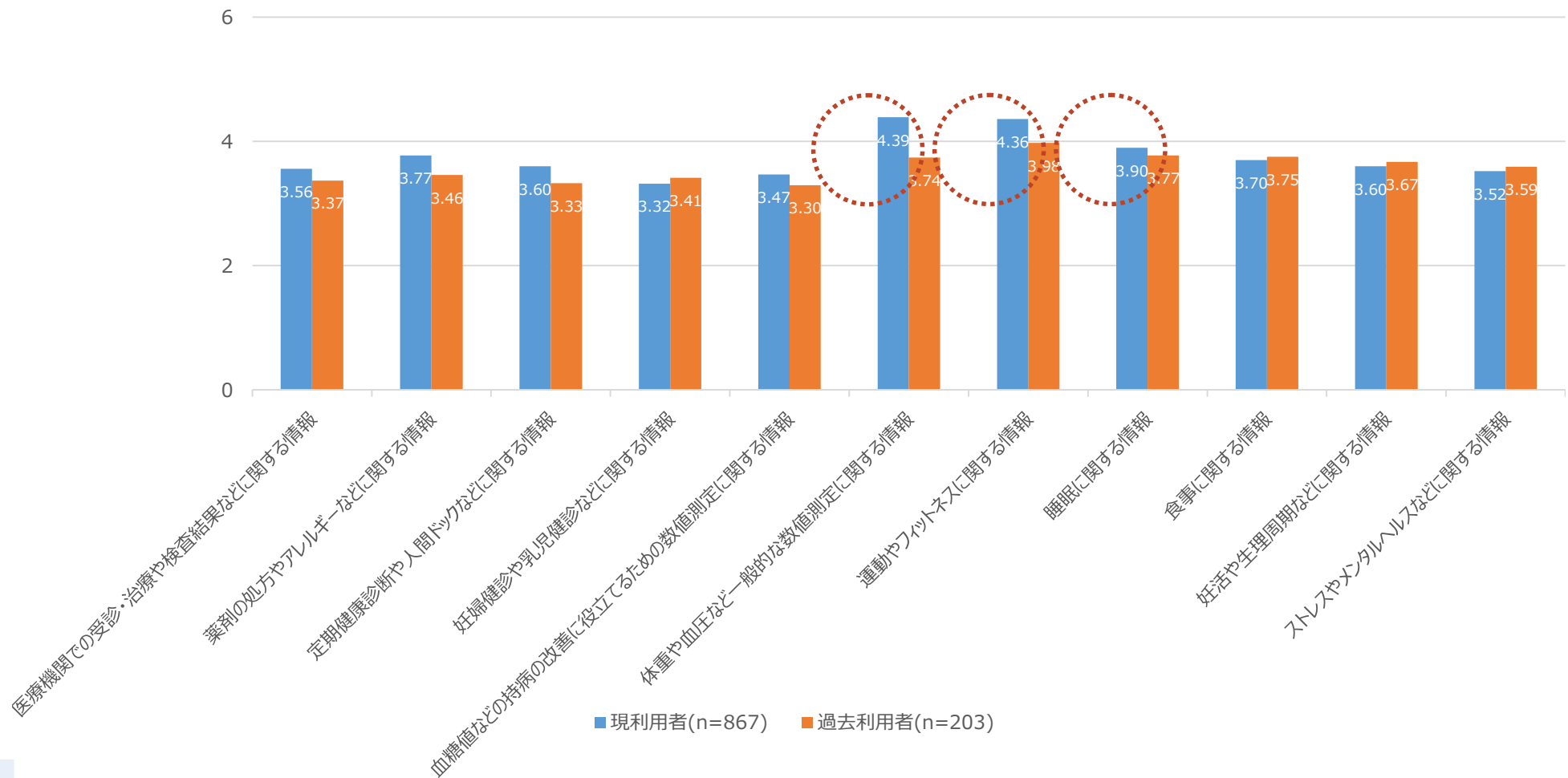


※選択肢「1. 全くあてはまらない」～「9. とてもあてはまる」の平均値を比較

2. P H R利用状況

(3) 利用実態 ②情報

- 体重や血圧、運動、睡眠等の日々のライフログ情報を比較的多く利用している



※選択肢「1. 全くあてはまらない」～「9. とてもあてはまる」の平均値を比較

2. P H R 利用状況

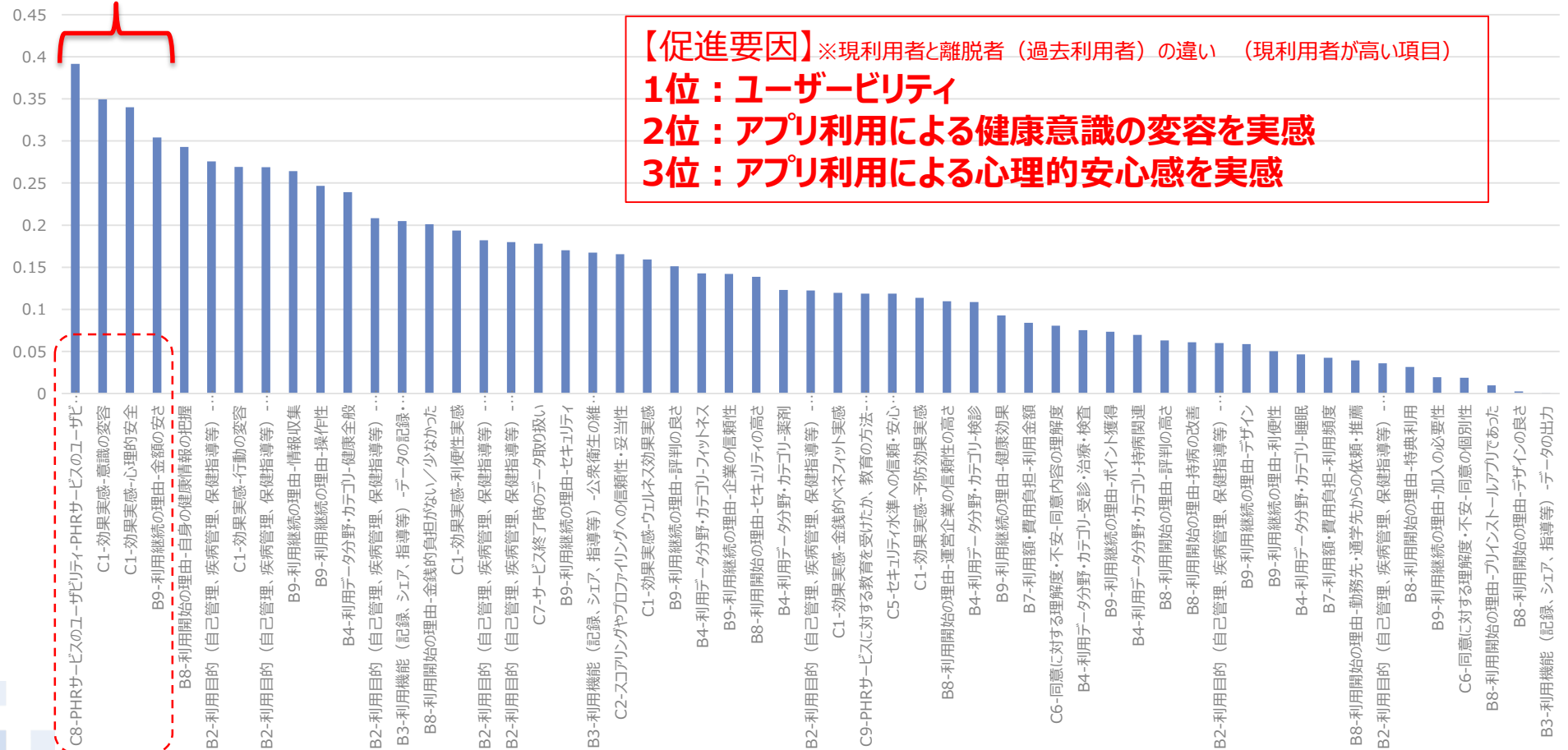
(4) 利用継続要因 (現利用者-過去利用者の差分 (効果量 d) 降順)

- 現利用者と離脱者 (過去利用者) を比較した結果、**P H R サービスの利用者は、アプリケーション自体のユーザビリティを高く評価し、また利用による健康意識・安心感を実感している**

現利用者-過去利用者の差分 (効果量 d) 降順 ※ > 0 の項目

効果量：2群間の平均値の差を標準偏差で割って標準化したもので、平均値がどれだけ離れているか評価する指標。0.2以上あれば小さいが効果がある。0.5以上で中程度の効果 と解釈 *Cohen(1969)

効果量0.3以上の項目

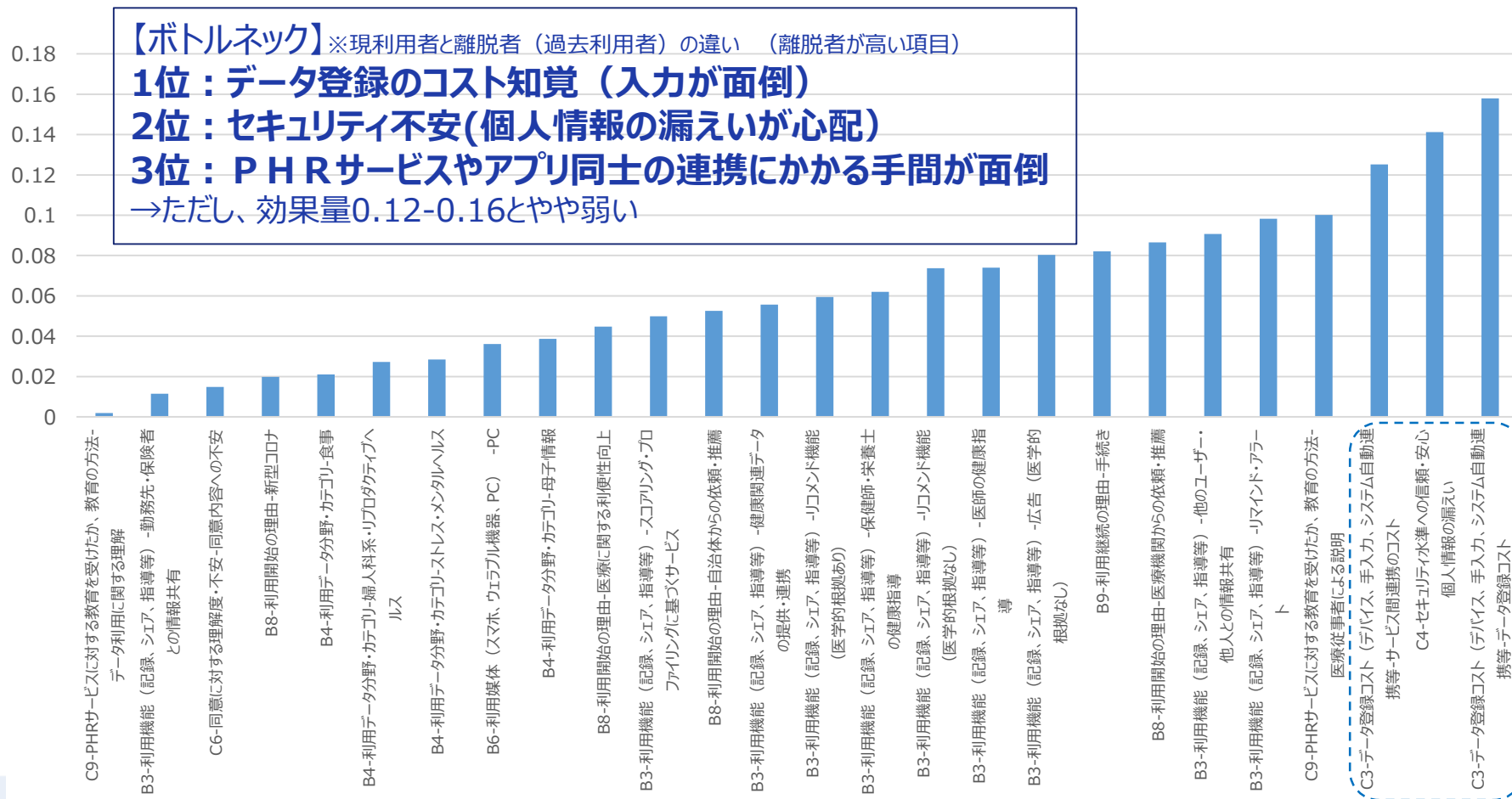


2. P H R利用状況

(4) 利用離脱要因 (現利用者ー過去利用者の差分 (効果量 d) 降順)

- 一方で、離脱者はデータ登録やアプリ同士の連携をコストと考えており、また個人情報の漏えいやセキュリティに対する不安も高い

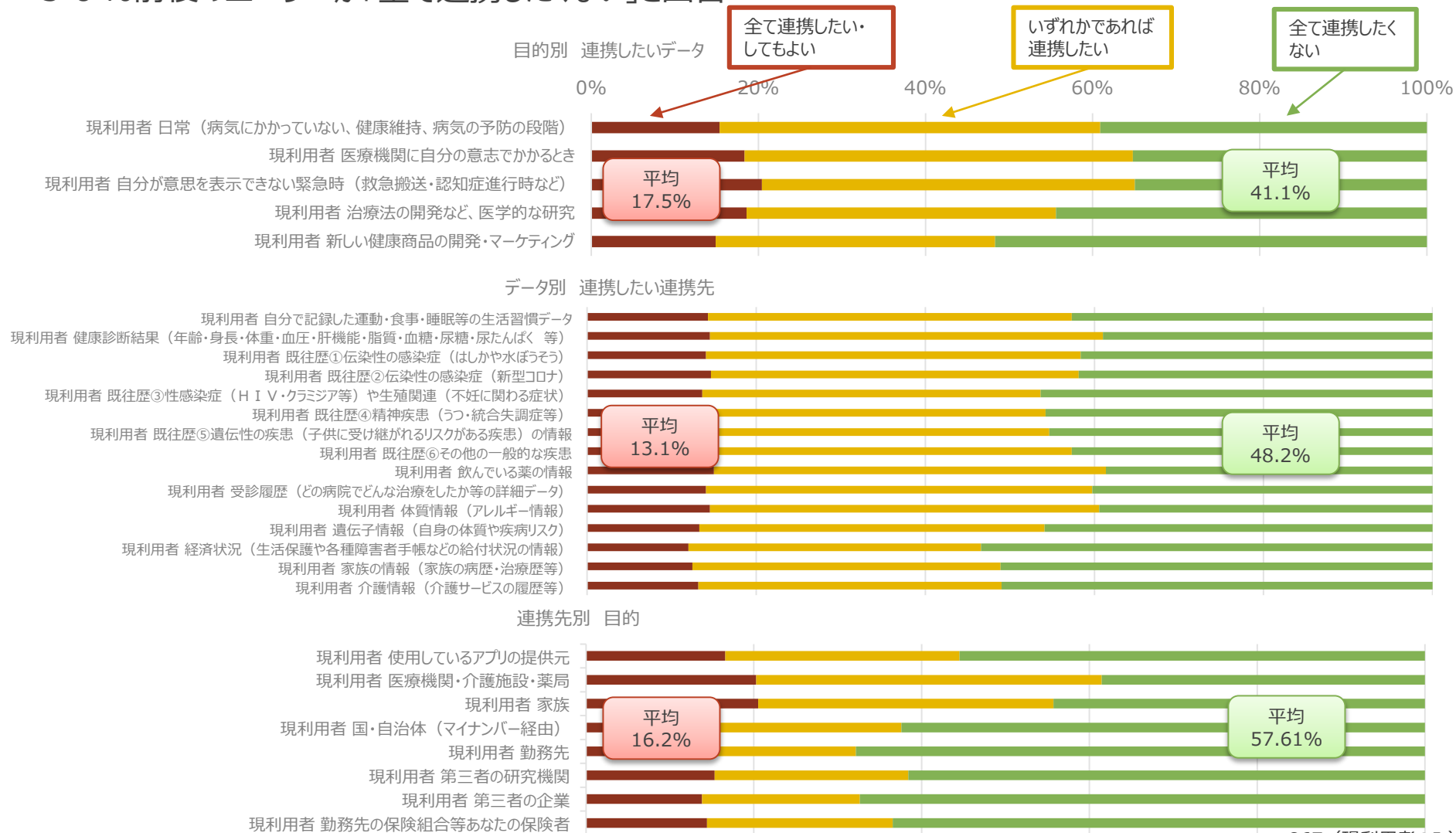
現利用者ー過去利用者の差分 (効果量 d) 降順 ※ < 0 の項目



2. P H R利用状況

(5) 連携へのニーズ 連携したいデータ・相手・目的

- データ別、連携先別、目的別の連携意向をみると、15%前後のユーザーが「全て連携してもいい」、50%前後のユーザーが「全て連携したくない」と回答



n=867（現利用者のみ）

2. P H R 利用状況

(5) 連携へのニーズ 連携したいデータ・相手・目的

- 連携意向が高かったのは「医療機関」相手、「健診結果・薬情報・受診・アレルギー」データ
- 連携意向が低かったのは「勤務先・第三者企業・保険者」相手、「経済状況・家族情報・介護」データ、「商品開発・マーケティング」目的

※「いずれか連携したい」と回答したユーザーの分析結果

「データの内容」×「連携相手」×「目的」別に連携したいと答えた割合																	
目的	対象	データ															
			自分で記録した運動・食事・睡眠等の生活習慣データ	健康診断結果（年齢・身長・体重・血圧・肝機能・脂質・血糖・尿酸・尿たんぱく等）	既往歴①伝染性の感染症（はしかや水ぼうそう）	既往歴②伝染性の感染症（新型コロナウイルス）	既往歴③性感染症（HIV・クラミジア等）や生殖関連（不妊に関わる症状）	既往歴④精神疾患（うつ・統合失調症等）	既往歴⑤遺伝性の疾患（子供に受け継がれるリスクがある疾患）の情報	既往歴⑥その他の一般的な疾患	飲んでいる薬の情報	受診履歴（どの病院でどんな治療をしたか等の詳細データ）	体質情報（アレルギー情報）	遺伝子情報（自身の体質や疾病リスク）	経済状況（生活保護や各種障害者手帳などの給付状況の情報）	家族の情報（家族の病歴・治療歴等）	介護情報（介護サービスの履歴等）
現利用者 日常（病気がかかっていない、健康維持、病気の予防の段階）			26.07%	20.65%	8.54%	8.30%	6.57%	7.50%	5.42%	8.30%	14.07%	10.50%	10.84%	6.00%	3.69%	4.04%	2.88%
現利用者 医療機関に自分の意志でかかるとき			17.53%	23.41%	11.65%	11.42%	9.57%	10.03%	9.34%	12.80%	20.65%	17.65%	15.46%	8.65%	3.11%	5.19%	3.58%
現利用者 自分が意思を表示できない緊急時（救急搬送・認知症進行時など）			15.46%	20.65%	11.42%	11.30%	9.00%	9.57%	8.30%	12.57%	19.95%	16.49%	14.30%	8.42%	3.81%	6.00%	3.81%
現利用者 治療法の開発など、医学的な研究			13.15%	14.88%	6.00%	6.92%	4.73%	5.54%	5.42%	6.92%	9.80%	9.46%	7.96%	5.88%	2.65%	2.31%	2.19%
現利用者 新しい健康商品の開発・マーケティング			13.26%	11.53%	4.61%	4.96%	4.04%	4.04%	4.61%	5.65%	8.42%	7.73%	6.92%	4.61%	1.96%	2.65%	2.08%

データ	対象	連携相手								
			使用しているアプリの提供元	医療機関・介護施設・薬局	家族	国・自治体（マイナンバー経由）	勤務先	第三者の研究機関	第三者の企業	勤務先の保険組合等あなたの保険者
現利用者 自分で記録した運動・食事・睡眠等の生活習慣データ			15.57%	24.45%	16.15%	4.73%	3.34%	6.11%	3.00%	2.54%
現利用者 健康診断結果（年齢・身長・体重・血圧・肝機能・脂質・血糖・尿酸・尿たんぱく等）			12.92%	31.49%	17.42%	6.34%	4.61%	6.11%	2.65%	4.73%
現利用者 既往歴①伝染性の感染症（はしかや水ぼうそう）			10.38%	29.76%	16.49%	6.23%	3.00%	5.54%	2.77%	3.69%
現利用者 既往歴②伝染性の感染症（新型コロナウイルス）			9.92%	28.84%	16.03%	6.34%	3.81%	6.46%	3.00%	3.00%
現利用者 既往歴③性感染症（HIV・クラミジア等）や生殖関連（不妊に関わる症状）			9.34%	25.84%	14.07%	5.42%	2.19%	5.65%	2.77%	1.85%
現利用者 既往歴④精神疾患（うつ・統合失調症等）			9.23%	27.22%	14.53%	6.46%	2.08%	5.19%	3.34%	2.77%
現利用者 既往歴⑤遺伝性の疾患（子供に受け継がれるリスクがある疾患）の情報			9.11%	26.07%	14.53%	5.54%	2.65%	6.00%	2.42%	2.31%
現利用者 既往歴⑥その他の一般的な疾患			10.27%	28.72%	15.22%	5.31%	2.42%	6.46%	3.34%	3.23%
現利用者 飲んでいる薬の情報			10.61%	32.41%	16.49%	5.65%	2.08%	6.23%	3.11%	3.11%
現利用者 受診履歴（どの病院でどんな治療をしたか等の詳細データ）			10.61%	32.18%	16.26%	5.19%	2.08%	5.65%	3.23%	3.58%
現利用者 体質情報（アレルギー情報）			10.50%	31.60%	17.19%	5.19%	2.42%	6.34%	3.00%	3.00%
現利用者 遺伝子情報（自身の体質や疾病リスク）			9.80%	25.37%	14.76%	4.61%	2.31%	5.77%	2.65%	2.08%
現利用者 経済状況（生活保護や各種障害者手帳などの給付状況の情報）			7.15%	18.11%	12.92%	5.19%	3.00%	4.04%	2.19%	2.65%
現利用者 家族の情報（家族の病歴・治療歴等）			7.50%	18.69%	14.88%	4.27%	3.00%	3.69%	1.85%	1.96%
現利用者 介護情報（介護サービスの履歴等）			7.73%	19.72%	14.07%	5.31%	2.08%	4.73%	2.42%	2.65%

目的	対象					
		連携相手				
日常（病気がかかっていない、健康維持、病気の予防の段階）						
医療機関に自分の意志でかかるとき						
自分が意思を表示できない緊急時（救急搬送・認知症進行時など）						
治療法の開発など、医学的な研究						
新しい健康商品の開発・マーケティング						
現利用者 使用しているアプリの提供元		15.22%	10.73%	7.15%	5.31%	3.23%
現利用者 医療機関・介護施設・薬局		14.88%	27.68%	22.03%	9.00%	3.92%
現利用者 家族		15.57%	16.96%	18.69%	6.46%	2.42%
現利用者 国・自治体（マイナンバー経由）		7.50%	7.84%	7.50%	6.23%	2.54%
現利用者 勤務先		6.34%	5.42%	5.42%	3.58%	3.23%
現利用者 第三者の研究機関		6.57%	7.15%	5.54%	8.77%	4.38%
現利用者 第三者の企業		4.84%	4.96%	3.23%	6.57%	3.69%
現利用者 勤務先の保険組合等あなたの保険者		8.19%	7.84%	6.92%	5.19%	2.42%

n=867（現利用者のみ）

2. P H R利用状況

(6) 調査結果サマリ

利用割合	・ P H R 現利用率は、高いもので 1 4 % 程度（スクリーニング前の母集団を対象とした概算） ・ 現利用者の利用しているアプリは、「お薬手帳」・「コロナ」・「フィットネス」が多い
P H R 認知度	・ 6 6 . 7 % が P H R の名称について「全く知らない」と回答 ・ P H R の名称の認知度は、現利用者・過去利用者の方が高い
利用実態	・ 利用目的として、健康増進・疾病予防、各種手帳等の電子化が多い ・ 勤務先や通学先などから利用するように指示や推薦からという回答はそれほど多くない ・ 体重や血圧、運動、睡眠等の日々のライフログ情報を比較的多く利用している
利用にかかる要因	・ 利用継続要因は、アプリケーション自体のユーザビリティ、利用による健康意識・安心感の実感 ・ 利用離脱要因は、データ登録やアプリ同士の連携コスト、個人情報の漏えいやセキュリティに対する不安
連携ニーズ	・ データ連携に関して 1 5 % 前後のユーザーが「全て連携してもいい」、5 0 % 前後のユーザーが「全て連携したくない」 ・ 連携意向が高い項目「医療機関」相手、「健診結果・薬情報・受診・アレルギー」データ ・ 連携意向が低い項目「勤務先・第三者企業・保険者」相手、「経済状況・家族情報・介護」データ、「商品開発・マーケティング」目的

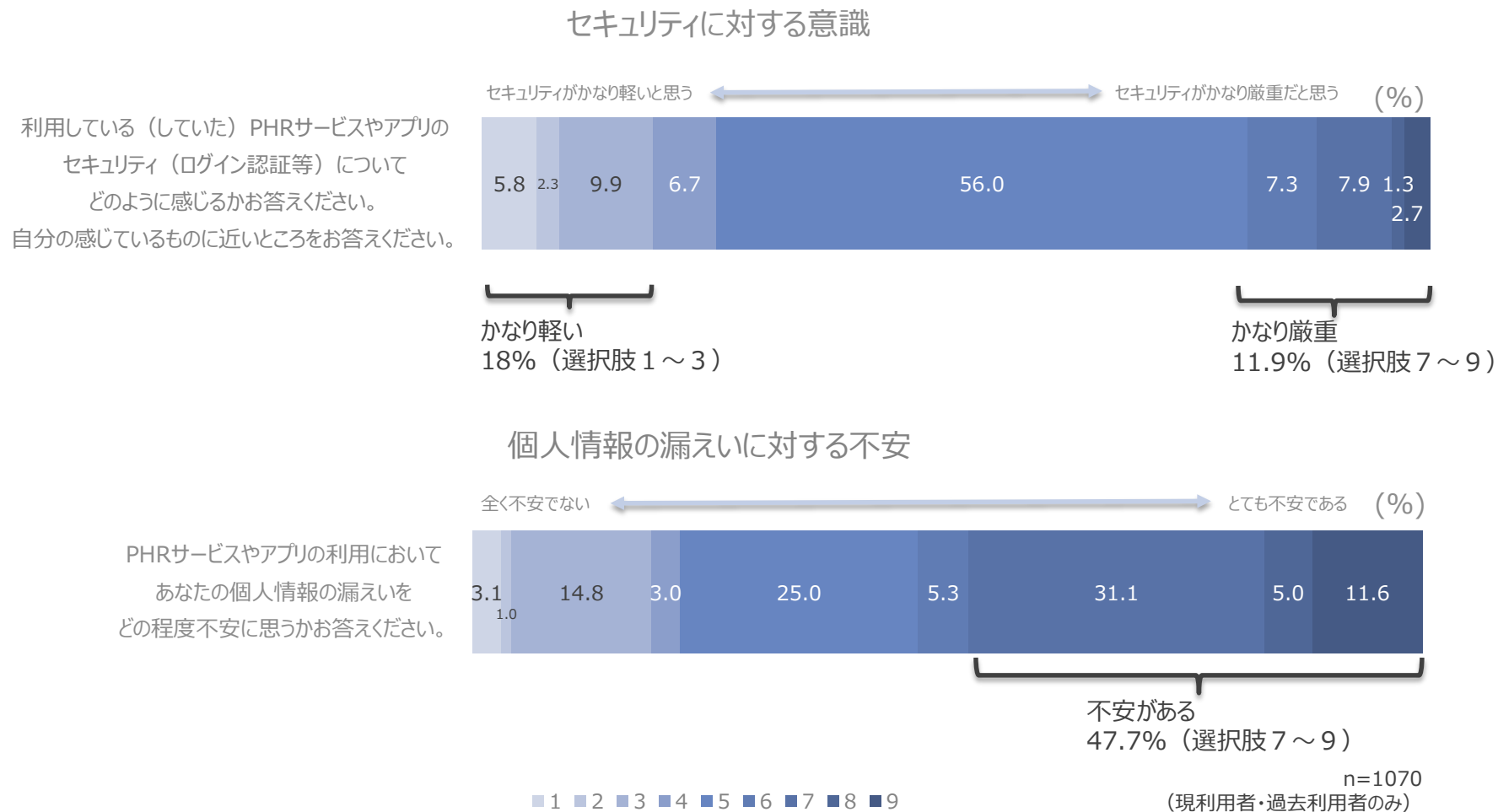
I 民間PHRサービス利用者へのアンケート調査結果

3. 「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」（案）項目関連

3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連

(1) 情報セキュリティ対策 ①セキュリティや個人情報に関する意識

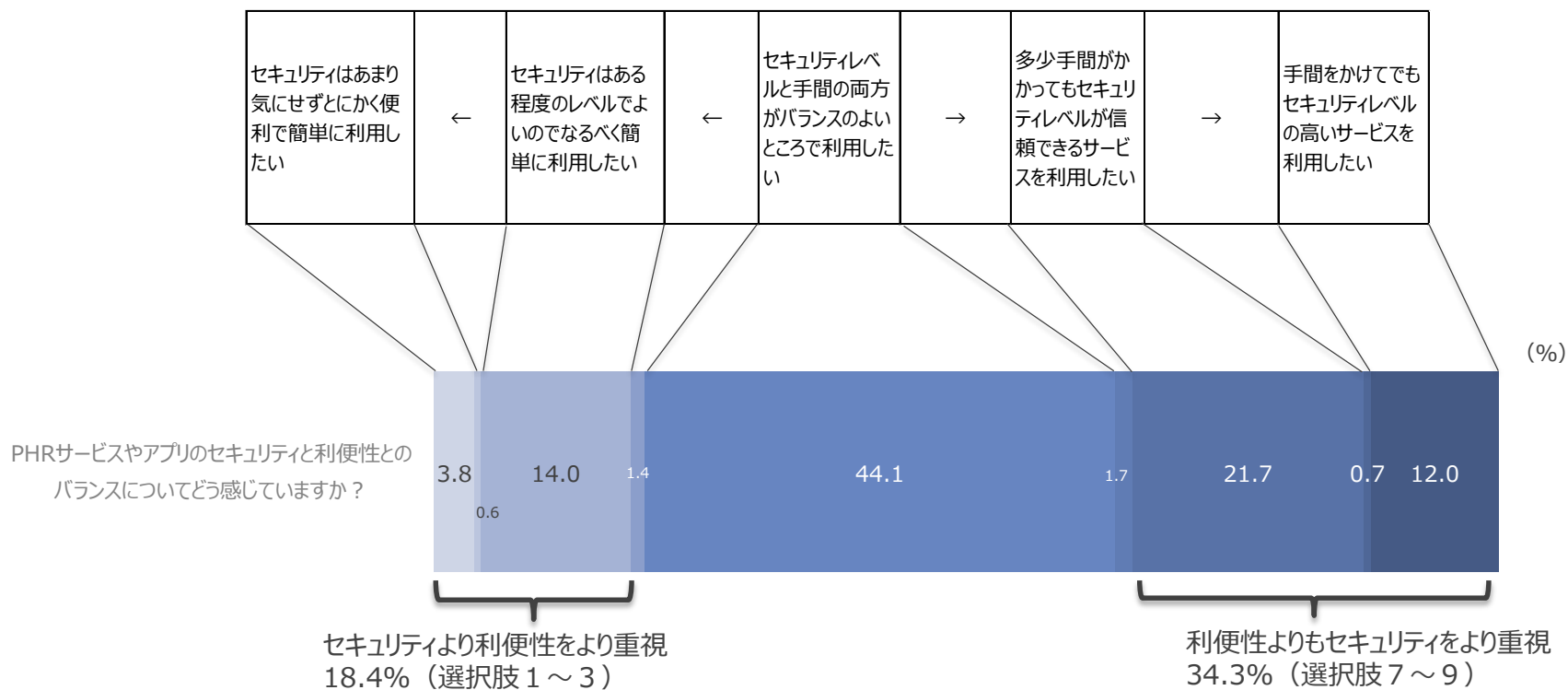
- 利用するサービスのセキュリティに対する意識にはばらつきがある
- 個人情報の漏えいに対する不安がある人は、利用したことのある人の約半数



3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」（案） 項目関連 （1） 情報セキュリティ対策 ②利便性とセキュリティのバランス

- セキュリティより利便性をより重視するのは約 2 割、利便性よりもセキュリティをより重視するのは約 3 割

P H R サービスやアプリのセキュリティと利便性とのバランス

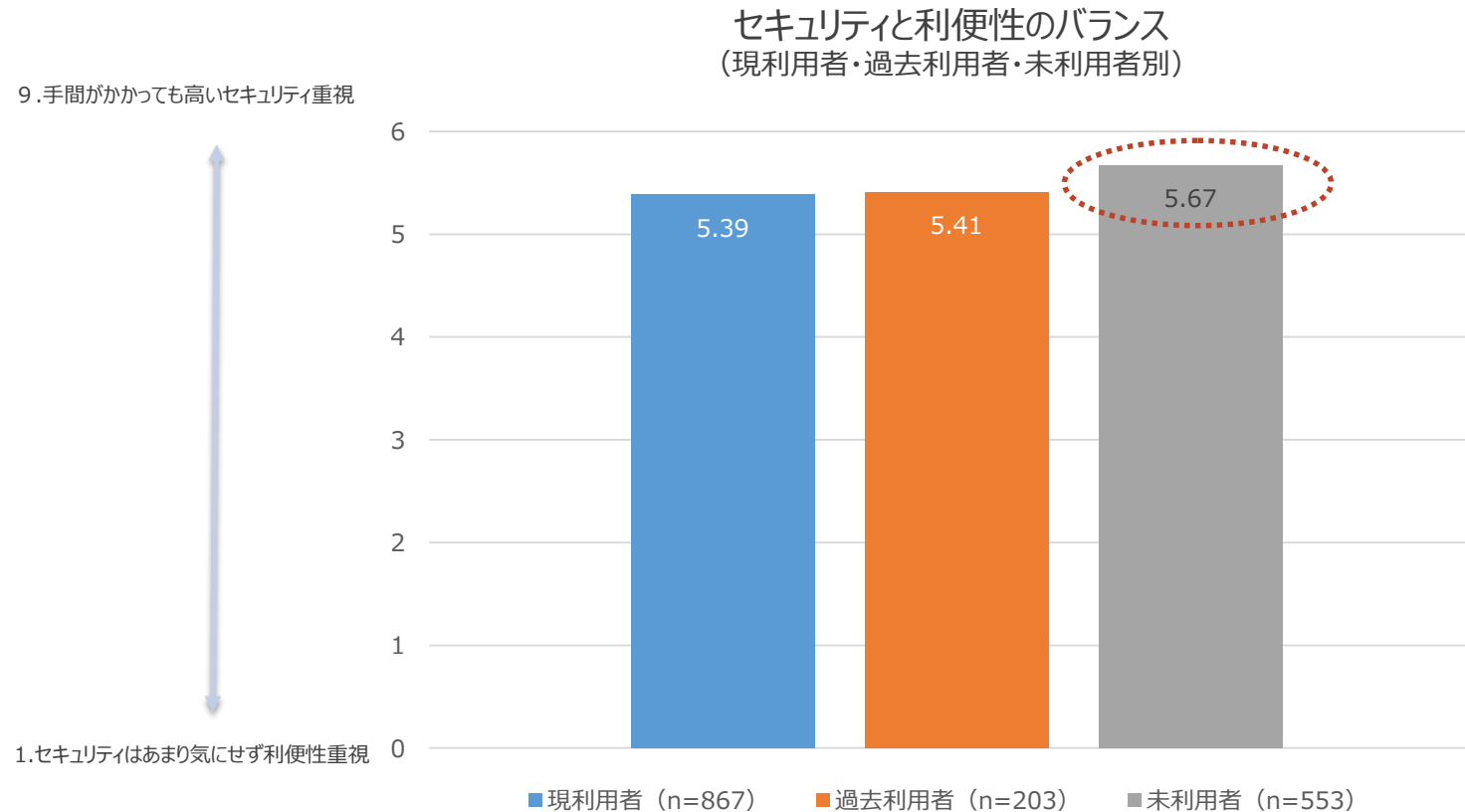


n=1623

3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連

(1) 情報セキュリティ対策 ②利便性とセキュリティのバランス (現利用者・過去利用者・未利用者の比較)

- 未利用者は、利用したことがある人よりも、利便性よりセキュリティを重視



※選択肢「1.セキュリティはあまり気にせず利便性重視」～「9.手間がかかっても高いセキュリティ重視」の平均値を比較

3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連

(2) 個人情報の取扱い ①同意の理解度

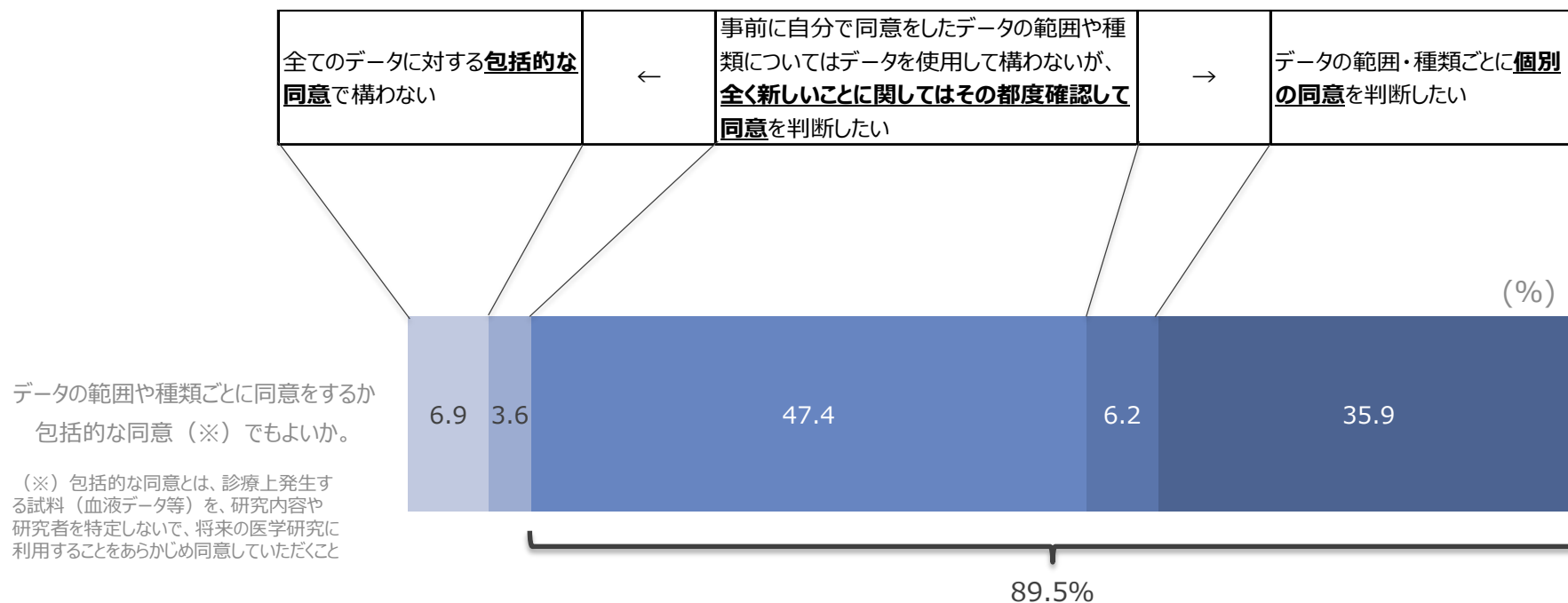
- 個別に同意をしている割合は、2 割強
- 同意内容を理解している割合及び同意の適用範囲やデータ共有相手について分からず不安を感じている割合は、4 人に 1 人

同意内容の理解度・個別性・不安



3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」（案） 項目関連 （2） 個人情報の取扱い ②包括的同意の在り方

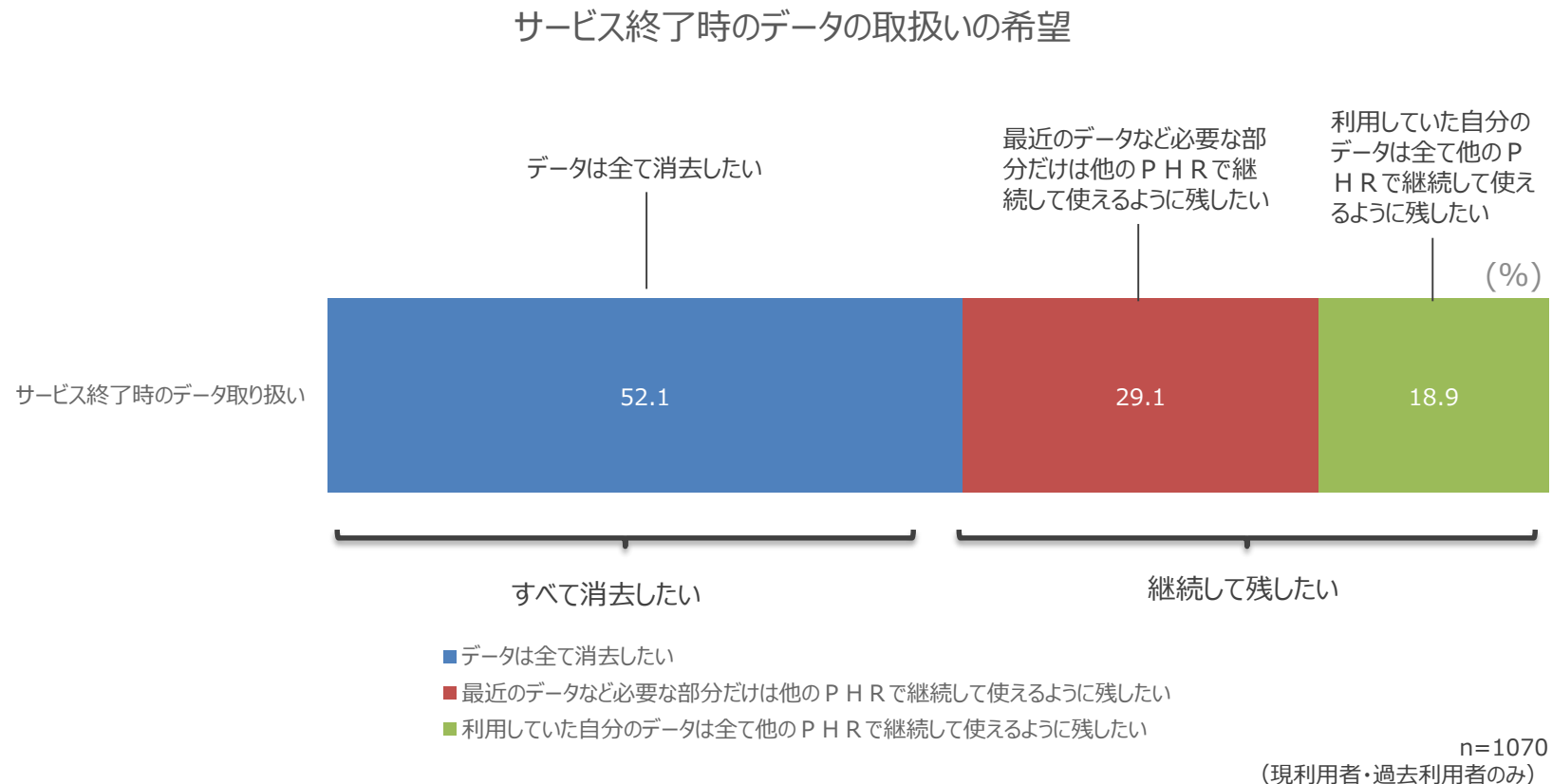
- 全てのデータに対する包括的な同意で構わないとする人は約 7 %
- データの範囲・種類ごとに個別に同意を判断したい及び、全く新しいことに関してはその都度確認して同意をしたいを合わせると、約 9 割が包括的な同意ではなく、データの範囲や種類ごとの同意を望んでいる



n=1623

3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連 (2) 個人情報の取扱い ③サービス終了時のデータの扱い

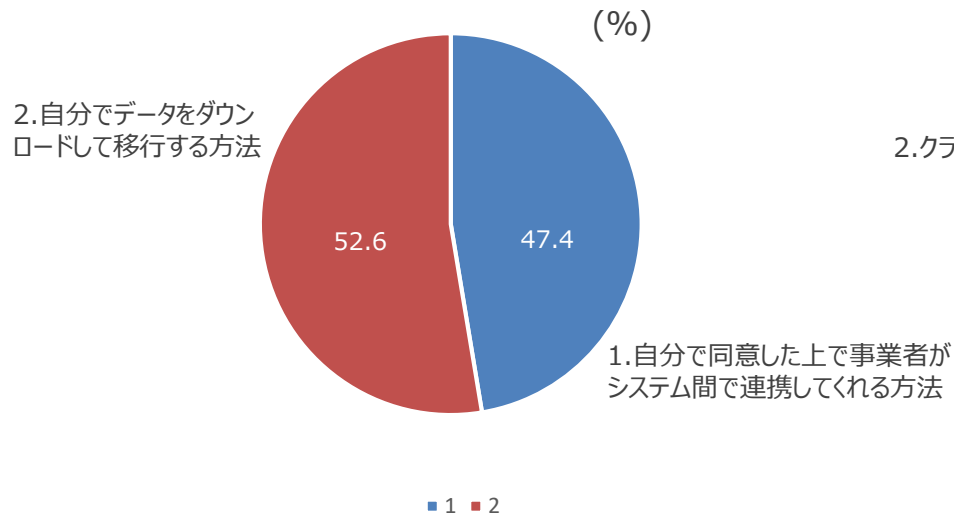
- サービス終了時のデータは、全て消去したい人と、何らか継続して残したい人が半々である



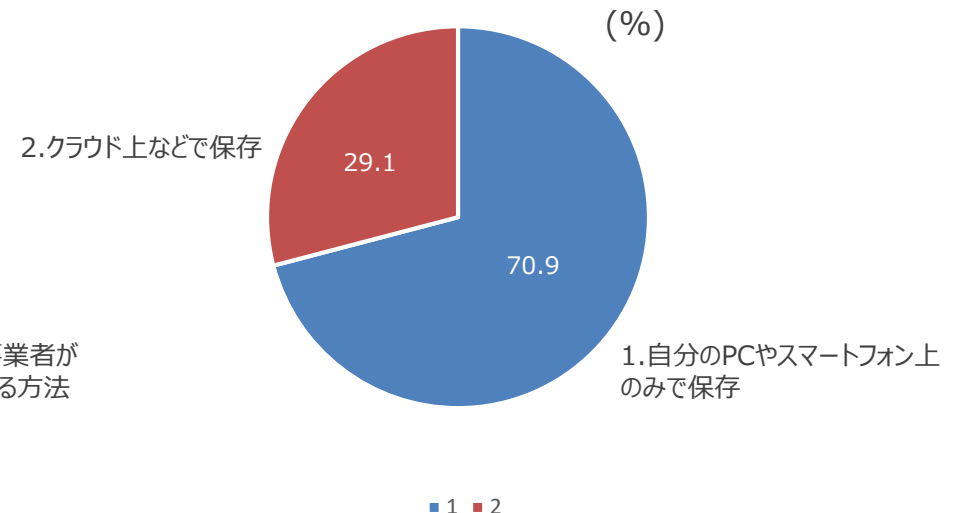
3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連 (3) 保存・管理、相互運用性の確保 ①ポータビリティ、サービス乗り換え

- サービス乗り換え時に希望するデータ移行方法は、「事業者にしてもらう」、「自分で行う」が半々
- 一方、希望するデータ保存方法については、クラウドを利用することを望む人が約 3 割

サービス乗り換え時のデータ移行方法



ダウンロードした場合のデータ保存方法

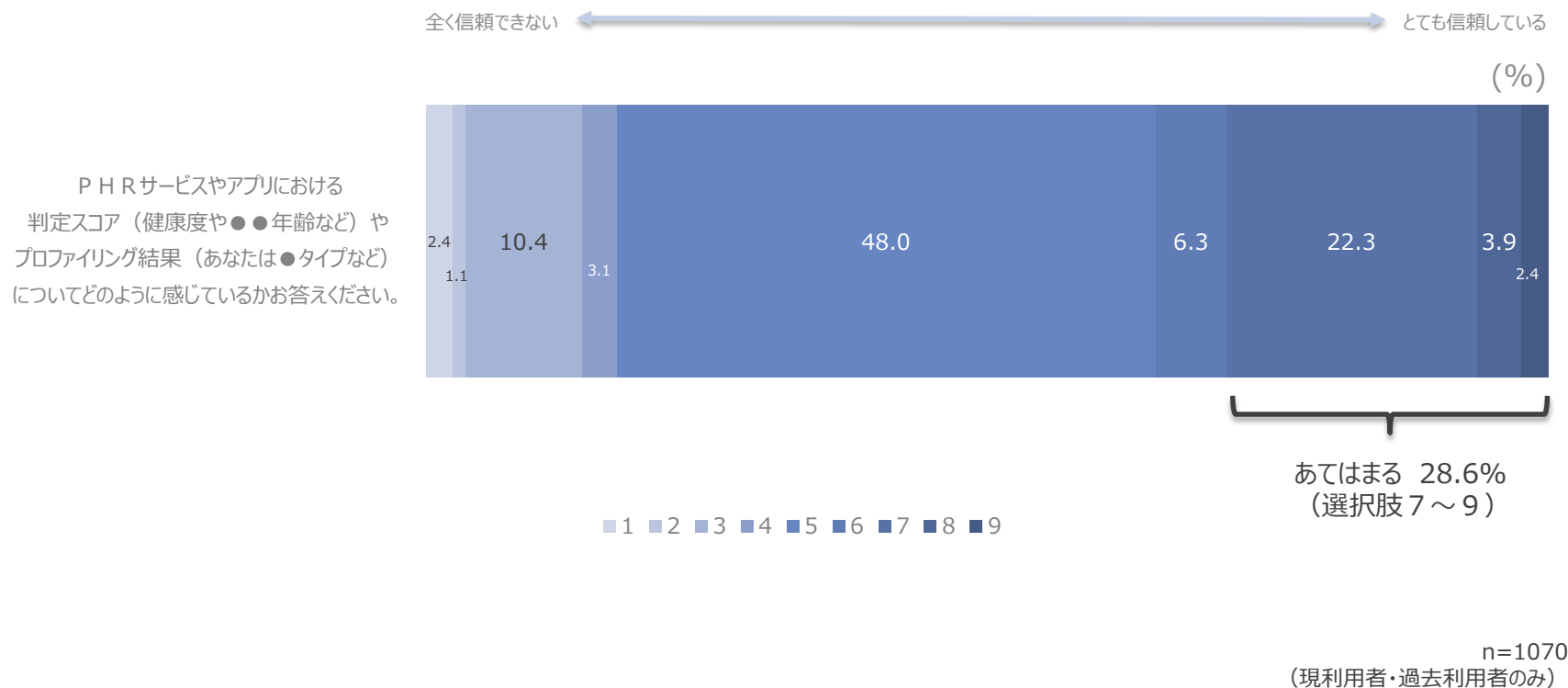


n=1623

3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連 (4) その他 ①判定スコアやプロファイリング結果の信頼性・妥当性

➤ 判定スコアやプロファイリング結果を信頼するのは、約 3 割

スコアリングやプロファイリングへの信頼性・妥当性



3. 「民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」(案) 項目関連 (5) 調査結果サマリ

情報セキュリティ対策

- ・ 利用するサービスのセキュリティに対する意識にはばらつきがある
- ・ 個人情報の漏えいに対する不安がある人は、利用したことのある人の約半数
- ・ セキュリティより利便性をより重視するのは約 2 割、利便性よりもセキュリティをより重視するのは約 3 割
- ・ 未利用者は、利用したことがある人よりも、利便性よりセキュリティを重視

個人情報の取扱い

- ・ 個別に同意をしている割合は、2 割強
- ・ 同意内容を理解している割合及び同意の適用範囲やデータ共有相手について分からず不安を感じている割合は、4 人に 1 人
- ・ 全てのデータに対する包括的な同意で構わないとする人は約 7 %
- ・ データの範囲・種類ごとに個別に同意を判断したい及び、全く新しいことに関してはその都度確認して同意をしたいを合わせると、約 9 割が包括的な同意ではなく、データの範囲や種類ごとの同意を望んでいる
- ・ サービス終了時のデータは、全て消去したい人と、何らか継続して残したい人が半々である

相互運用性の確保

- ・ サービス乗り換え時に希望するデータ移行方法は、「事業者にしてもらう」、「自分で行う」が半々
- ・ 一方、希望するデータ保存方法については、クラウドを利用することを望む人が約 3 割

その他

- ・ 判定スコアやプロファイリング結果を信頼するのは、約 3 割

I 民間PHRサービス利用者へのアンケート調査結果

参考：健診等情報を取扱うPHRサービス利用者の特徴

本調査に加え、健診等情報を取扱うPHR事業者の協力を得て1,774人分の追加アンケート調査を実施。

本調査の「オンライン診療・診療予約」「健康診断・医療費」「診療管理」「疾病管理」「お薬手帳」「出産・育児」利用者及びそれ以外のPHR利用者と、当該追加アンケート調査における健診等情報を取扱うPHRサービス利用者のデータを比較した。

参考：健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者の特徴

実施概要

- 前述に示したアンケートでは、健診等情報の利用者の発現が少ないと想定されたため、健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者に対する追加アンケートを実施し、健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者の実態を把握した

【追加調査 実施概要】

項目	内容
アンケート対象	・健診等情報を取扱うP H Rサービス（※ 1）（10事業者）利用者 （昨年度事業者アンケートから、「健診等情報を用い、かつ個人向けにサービスを提供する事業者」を抽出）
実施方法	・W E B アンケート調査（上記P H R事業者から自社利用者に案内、W E B上で回答）
実施期間	・令和2年12月下旬
調査項目	＜本体アンケートの項目から以下を抜粋（※ 2）（一部新規追加）＞ - 基本属性 - 属性（年代・性別） 【新規追加】現在、利用しているパーソナルヘルスレコード（P H R）サービスやアプリ - 利用促進要因（利用による効果） - 利用にあたっての懸念点（有効性・安全性、データ連携、個人情報、セキュリティ、同意、サービス終了時への扱い、サービス乗り換え、使い勝手、サービスへの説明に関する意識） - 全員 - 欲しい機能、セキュリティと利便性のトレードオフ、連携ID、サービス乗り換え - 場面×データ範囲×連携したい相手、同意なく利用されたくない相手 - 望ましい同意の在り方

（※ 1）本作業班で議論されている「健診等情報」の定義に該当する情報を取り扱っているサービスを抽出したものであるが、これらは「健診等情報」の範囲と厳密に一致するものではない。

（※ 2）項目は以下の方針のもと抜粋

- ・ 健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者が、どのような利用に対して懸念点があるかを把握し、ルール作りに資することを目的に項目を選択する。
- ・ 情報の種類にかかわらず、国民全体の傾向として把握することを目的にした項目については、対象から外す。

なお、以降の解析にあたっては、下記①②③の利用者の回答を比較しており、①及び③を「健診等情報を取扱うP H Rサービス（※ 1）利用者」とした。

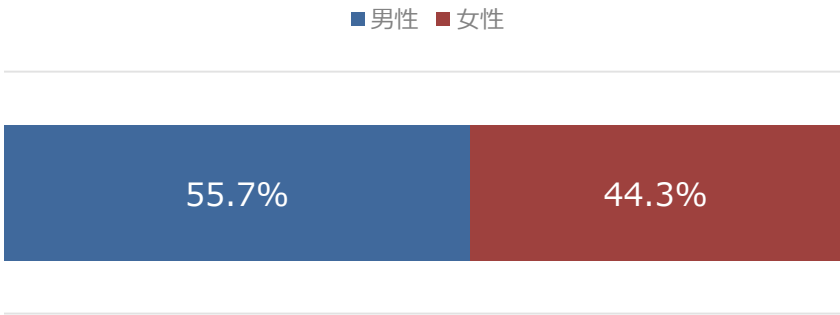
- ①本調査における健診等P H Rサービス利用者（n=440）：本調査における現利用者のうち、「オンライン診療・診療予約アプリ」「健康診断・医療費アプリ」「診療管理アプリ」「疾病管理アプリ」「お薬手帳アプリ」「出産・育児アプリ」を選択した回答者
- ②本調査におけるその他P H Rサービス利用者（n=427）：本調査における現利用者のうち、①の回答者以外
- ③追加調査における健診等P H Rサービス利用者（n=1774）：追加調査の回答者

参考：健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者の特徴

追加調査 回答者属性

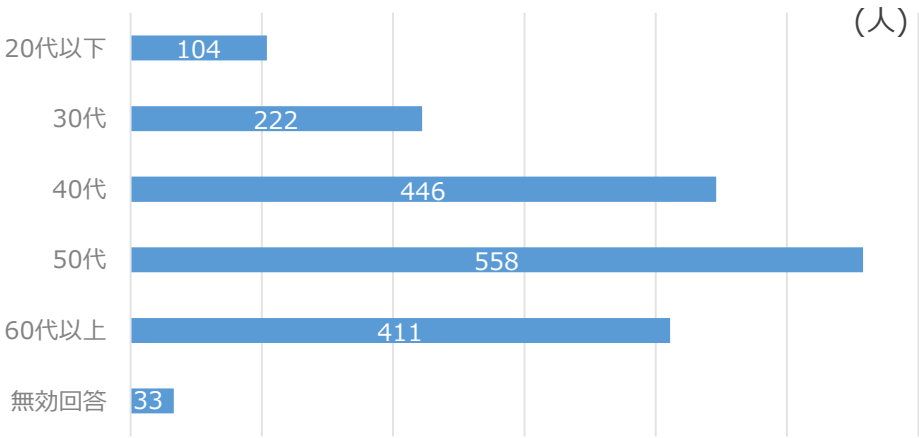
【回答者性別】

性別	人数	%
全体	1,774	100.0
男性	988	55.7
女性	786	44.3



【回答者年代別】

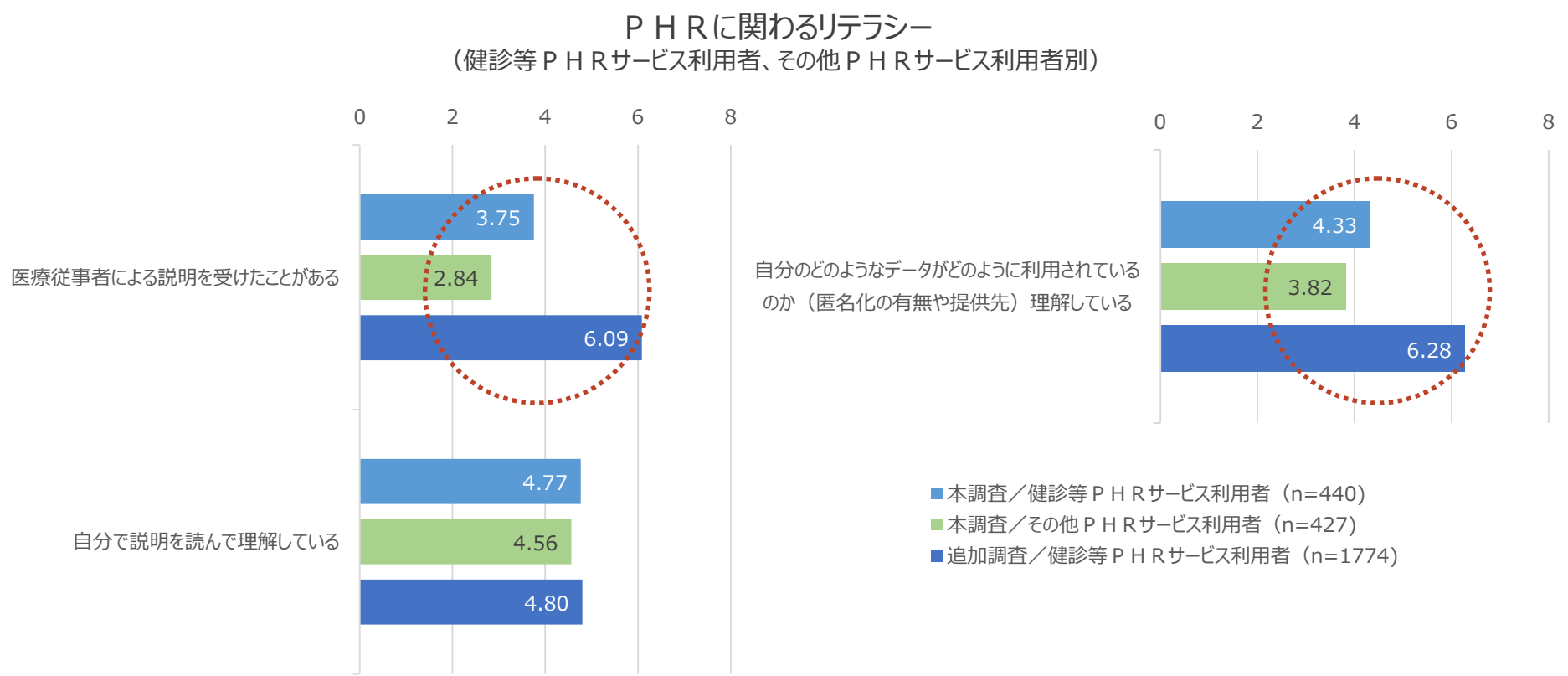
年代	人数	%
20代以下	104	6%
30代	222	13%
40代	446	25%
50代	558	31%
60代以上	411	23%
無効回答	33	2%
	1,774	100%



参考：健診等情報を取扱う P H R サービス利用者の特徴

P H R に関わるリテラシー

- 健診等情報を取扱う P H R サービス利用者は、その他の P H R サービス利用者と比べて、P H R に関わる説明を医療従事者等から受けており、個人情報の利用先についての理解も高い傾向

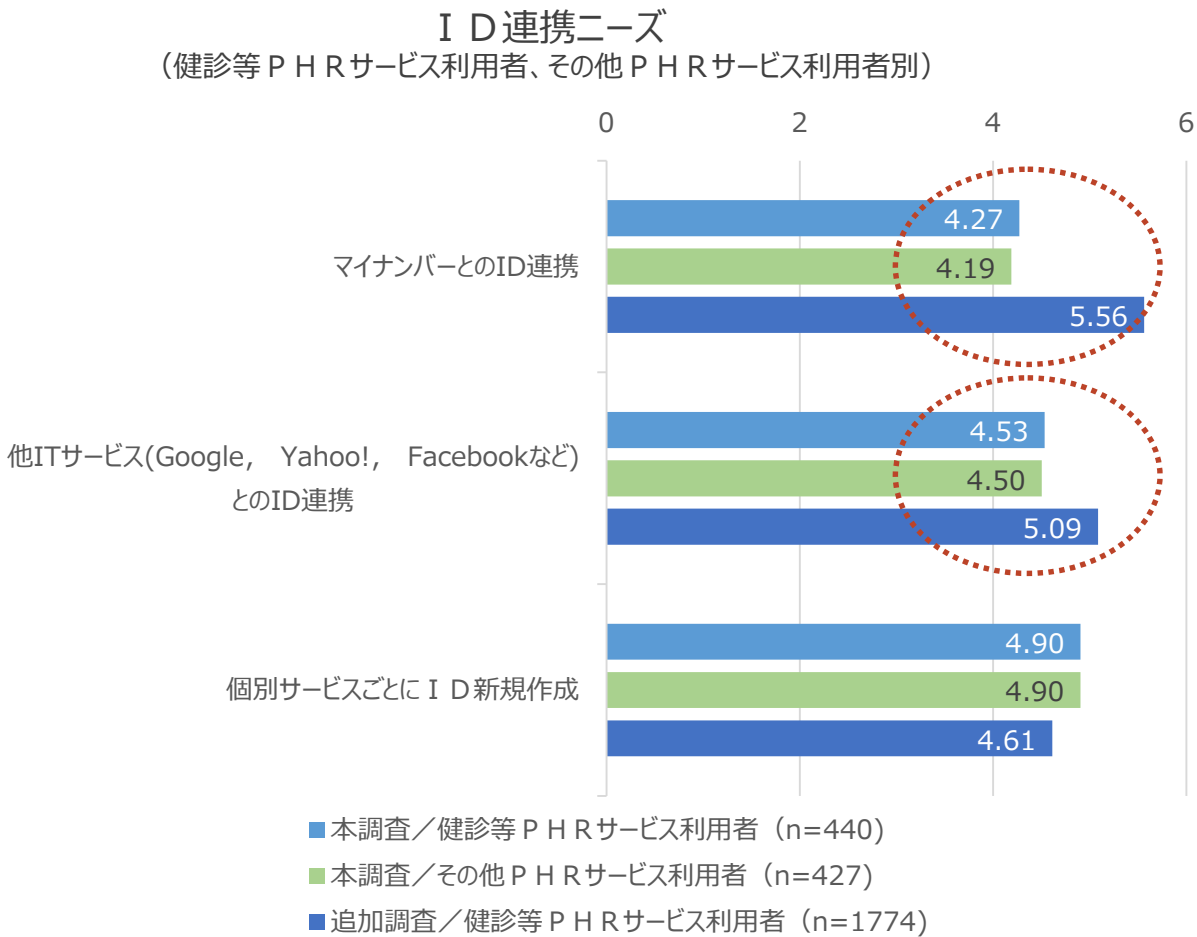


※選択肢「1.全くあてはまらない」～「9.とてもあてはまる」の平均値を比較

参考：健診等情報を取扱う P H R サービス利用者の特徴

I D 連携ニーズ

- 健診等情報を取扱う P H R サービス利用者は、その他の P H R サービス利用者と比べて、マイナンバーを含むID連携に前向きな傾向

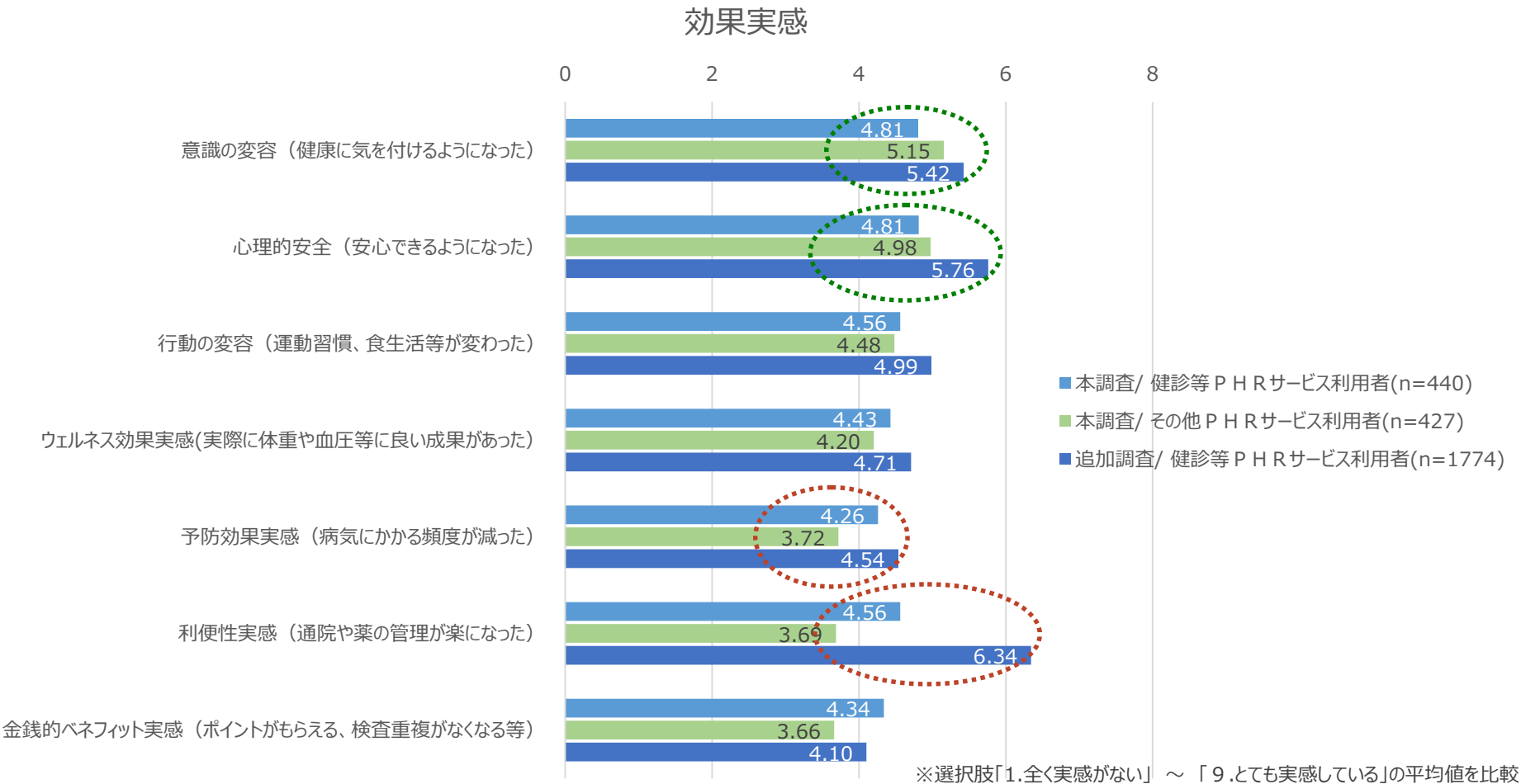


※選択肢「1.全く利用したくない」～「9.とても利用したい」の平均値を比較

参考：健診等情報を取扱う P H R サービス利用者の特徴

効果実感

- 健診等情報を取扱う P H R サービス利用者は、予防効果及び利便性において、効果を実感している傾向がある
- 意識の変容や心理的安全に関しては本調査と追加調査では傾向が異なった



参考：健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者の特徴

調査結果サマリ

リテラシー

- 健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者は、その他のP H Rサービス利用者と比べて、P H Rに関する説明を医療従事者等から受けており、個人情報の利用先についての理解も高い傾向

I D 連携

- 健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者は、その他のP H Rサービス利用者と比べて、マイナンバーを含むID連携に前向きな傾向

効果 実感

- 健診等情報を取扱うP H Rサービス利用者は、予防効果、利便性及び金銭的ベネフィット感において、効果を実感している傾向がある
- 意識の変容や心理的安全に関しては本調査と追加調査では傾向が異なった

Ⅱ 健診等情報に関するPHRサービスを提供している 健康保険組合等に対するヒアリング調査結果

ヒアリング調査概要

【目的】

- 保険者（国保・健保）には、P H R サービスを活用して被保険者等の健康増進を図るものがある。
- そこで、保険者の被保険者等に対する P H R サービスの活用の現状と課題を把握することにより、**国や業界による民間 P H R 事業者による健診等情報の取扱いに関するルールづくりに向けた検討に資する情報を取得することを目指す。**
- 本調査では、上記検討における以下の論点において、利用者にとっての利用阻害となる事項を把握する。（同時に利用実態や利用促進につながる要素も抽出する）

【対象】

- ・単一健保
 - ・総合健保
 - ・自治体
- 計 6 団体

【時期】

令和2年 1 1 月下旬
～令和 3 年 1 月上旬

【調査項目構成】

1. サービス全体について
 - サービス内容
 - 運用状況
 - 利用による効果
2. サービス導入の経緯
3. 事業者選定について
4. 事業者評価について
5. セキュリティ・個人情報の取扱い・本人同意について
6. 安全性・有効性について
7. マイナポータルについて

ヒアリング結果から得られた示唆

➤ 各団体から得た意見の概要を以下にまとめた。

ヒアリング結果	
1. サービス全体について	・ サービス内容 (サービス内容・利用状況) ・ 保健事業の一環として毎月の医療費通知、歴年健診データ（5年分）を確認できる。 ・ 健診情報を閲覧できる。 ・ 端末への健診情報のダウンロードはできない。 (第三者提供) ・ <u>健診データ・レセプトデータの第三者提供は許可していない</u>。被保険者へのメリットがなければ提供する意義がない。 ・ ビッグデータ利用への需要はあり、第三者提供によりサービス費用は下がる。しかし、組織の総意により、<u>P H R に集まった情報は第三者提供しておらず、今後もそのつもりはない</u>。 ・ <u>第三者提供はしていない</u>。 ・ 組織の保有するデータを民間 P H R 事業者へ預託しているが、<u>第三者提供ができないため、本人が直接入力する方式に切り替えたい</u>。
	・ 運用状況 ・ 閲覧機能を必ずしも活用できておらず、動機付けが課題である。健診データを閲覧するのは、健康に関心が高い層（高年層）である。 ・ 閲覧やキャンペーンにポイントを付与している。利用者属性は、ポイント収集を好む層である。 ・ 健診結果の受け取りまでに要する時間を考えると、W E B 上にログインし健診結果を確認するユーザーは少ない。 ・ 過去の健診結果閲覧はウェブ上でも閲覧は可能であるが、必要な際は健診機関へ問い合わせをして取得することを想定しているユーザーが多い。
	・ 利用による効果（評価） ・ アプリによる健康効果を今後検証する予定である。 ・ 通院をする者にとっては、健診結果を持ち歩かなくてよいのはメリットである。

ヒアリング結果から得られた示唆

		ヒアリング結果
2. サービス導入の経緯	・ サービス導入	・ 広報誌、WEB等により、サービス導入の周知をしている。 ・ 口コミによる利用者拡大が見込まれるため、住民へ直接アプリの登録方法をレクチャーするなど、地道に周知している。 ・ ハガキにて周知をしている。
3. 事業者選定について	・ 事業者選定基準 ・ 適切な評価、選択に必要な課題	(選定基準) ・ スピード感があり自主的な提案ができる<u>信頼感のある事業者</u>を選定。 ・ 当該領域に<u>実績のある事業者</u>を選定。 ・ <u>データの二次利用をしないこと、金額の妥当性</u>の観点から事業者を選定。 ・ 応募事業者のサービス内容には大差なく、<u>予算面</u>が決め手となった。 (第三者認定等の仕組み) ・ 第三者認定の仕組みがあると、<u>選定・評価の指標となるためありがたい。</u> ・ 信用調査のように、<u>民間P H R事業者のランキング</u>があるとよい。事業者の強みが見える化されているとありがたい。 ・ <u>基準はある方が良い。</u>特に<u>セキュリティ等</u>は自分達で判断が難しいため、お墨付きがあると良い。 (事業者の継続性) ・ 契約は1年契約で、半年前までに契約破棄しない限りは契約が続く。 ・ <u>民間P H R事業者から継続的にサービス提供されることは重要である。</u> ・ 本人の健診等情報の元データが本人のスマホにあるのなら、P H R事業者のサービスが終了しても問題ない。 ・ 複数のP H R事業者に必要な情報を提供することで、1つの事業者が終了してもサービス全体としては継続できるようにしている。
4. 事業者評価について	・ サービス・事業者評価	・ 自団体においてP H Rサービスに対する<u>評価基準は特に定めていない。</u> ・ <u>毎年監査を実施し、サービスの棚卸や機能改善の要望への対応を確認している。</u>ただ<u>評価基準までは定めていない。</u>

ヒアリング結果から得られた示唆

ヒアリング結果	
5. セキュリティ・個人情報の取扱い・本人同意について	・ セキュリティ ・ <u>自団体においてプライバシーマークの取得又はセキュリティ基準の設定等を行っている。</u> ・ <u>健診データを外部にアップロードをするのにあたり、特別に独自の個人情報規定を設けて対応している。</u> ・ <u>個人情報保護法等関係法令および「国保における個人情報の適切な取り扱いのためのガイダンス」や厚労省の事務連絡文書において示されている基準等を最低ラインとして設定した。</u> ・ <u>市町村説明の際は、事業者の対策が適切か厚労省にも確認いただき、理解を得た。</u> ・ <u>200数十項目のセキュリティに関する質問について、ヒアリングを実施することに加え、自団体のIT専門家による現地監査を行っている。</u> ・ <u>他部署の情報セキュリティ専門家を審査委員に入れて、安全性を確認した。</u>
	・ 個人情報の取扱い (個人情報の取り扱いに関する基本的なルール) ・ <u>一般的な個人情報の覚書を民間PHR事業者と締結している。</u> ・ <u>利用目的はより詳細に記載するのが好ましいが、多数の被保険者対象に総意を得るのは難しい。</u> ・ <u>健診情報の閲覧には、なりすまし防止と本人同意取得のため、健診閲覧コード（事業者から圧着はがきにて送付）の入力を必須としている。</u> (サービス提供終了時・本人解約時のデータ取り扱い規定) ・ <u>資格喪失後は利用ができない。被保険者から健康データを引き継ぎたいとの要望は今までない。</u> ・ <u>これまで申し出はないが、本人請求があれば情報の削除などに対応することになっている。退職後も基幹システムの情報は保持している。</u> ・ <u>サービス終了時は事業者がデータを廃棄する。</u>
	・ 本人同意 ・ <u>特定健診データについて、事業者間のデータ連携は、本人同意が得られれば過去の特定健診データを引き継いで運用できることにメリットがある。</u> ・ <u>委託先のPHR事業者へのデータ提供については、自団体の事業内でのデータ活用と位置付け、本人同意は取得していない。本人からの削除依頼に備え、『個人情報削除依頼書』を準備し、健康情報の削除依頼に対応している。（地方公共団体）</u> ・ <u>アプリ登録時に条件を提示しているが、個人のPHR登録時の利用規約については、細かい部分は把握していない。</u>

ヒアリング結果から得られた示唆

		ヒアリング結果
6. 安全性・有効性について	安全性・有効性に関する取組	- 生活習慣病リスクチェックの妥当性は、<u>提供する会社の信頼度、医師等の監修があるかどうかで判断している。</u> <u>サービス開発に医療系大学が関わっているため、安全性・有効性は担保されていると考えている。</u> <u>事業者の知見を活用している。</u> <u>安全性・有効性の判断は明示がされるとよいが、明確な線引きは難しい。企業努力による部分もある。</u>
7. マイナポータルについて	マイナポータルとの連携	(活用の在り方（現在の活用状況、今後の活用プラン）) <u>既に独自に健康情報を閲覧させる仕組みをもっているため、マイナポータルとの連携によるメリットのイメージがまだついていない。</u> - 上手く連携しながら、スマホ世代を健康管理に取り入れていきたい。 - 現状のサービス拡大も考えているが、<u>マイナポータルも利用できるようになるため、独自のサービスが必要かを判断していきたい。</u> (活用時の課題) - 効果的な保健指導のためには前の健診情報が必要であるが、<u>必ず本人同意を求めるとなると機動性が低下するのではないか。</u> <u>マイナポータルで連携されたデータが誰のものをきちんと定義することが必要ではないか。</u> - 普及のためには、サービス提供者にとって魅力的なデータあることが重要。<u>そのためにデータセットやデータ形式を開放しておく必要がある。</u> <u>セキュリティを担保することで懸念や不安をどれだけ払拭できるのか。他の情報も連動してくることで不安が増大する可能性がある。</u>

